

## 令和元年度第 1 回図書館協議会

1、日 時 令和元年 8 月 30 日 午前 10 時から正午まで

2、場 所 国分図書館 4 階会議室

3、出席委員 池田 恵子 社会教育関係者(PTA 協議会)

井之浦 一子 家庭教育活動者(公募委員)

久保 明子 家庭教育活動者(公募委員)

新屋 広子 学識経験者(市議会議員)

奥山 渉 学識経験者(市議会議員)

高 敏 裕樹 学識経験者(大阪教育大学准教授)

中野 勝次 社会教育関係者(こども会育成連絡協議会)

西澤 昭子 社会教育関係者(図書館ボランティア)

欠席委員 大木 輝夫 学校教育関係者(旭ヶ丘小学校校長)所用のため欠席

浅野 格士 社会教育関係者(社会教育委員)所用のため欠席

事務局 教育長 新子 寿一

教育部長 福島 潔

教育部次長 篠宮 裕之

図書館長 東野 泰彦

国分図書館長 増井 良年

柏原図書館長補佐 児玉 太津男

柏原図書館主査 辻崎 幹博

### 4、案 件

(1)平成 30 年度図書館活動報告について

・柏原市の図書館、柏原市立図書館統計資料〔資料No.1〕

(2)令和元年度の重点取組みについて〔資料No.2〕

①移動図書館車更新事業について〔資料No.3-1. 2. 3〕

②図書購入費について

③柏原市立図書館雑誌スポンサー制度について

(3)その他

### 5、議事の内容

<司会>

おはようございます。定刻になりましたので、只今から令和元年度柏原市図書館協議会を開会いたします。皆様方には、本日、公私なにかとお忙しいところ当協議会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。本日の司会をいたします、国分図書館館長の増井でございます。よろしくお願いいたします。まず会議に入ります前に、本日の会議は柏原市まちづくり基本条例第 15 条により「会議の公開」が規定されておりますので、本日の協議会を公開する事といたしますのでよろしくお願い申し上げます。それでは、開会に先立ち新子教育長から開会のあいさつを述べさせていただきます。

<新子教育長挨拶>

<司会>

- ・任命書の交付
- ・出席委員の紹介
- ・資料の確認

<事務局>

それでは次に資料の確認をさせていただきます。まず本日の次第、委員の名簿、「柏原市の図書館平成 30 年度」の冊子、柏原図書館統計資料(資料 No.1)、柏原市立図書館の令和元年度の重点取り組みについて(資料 2)。なお、概ねこれらの資料をもって説明させていただく予定であります。皆様お手元にご覧いただけますでしょうか？資料配布漏れがある場合はお申し出ください。それでは議題に入ります前に、本日の会議の成立状況でございますが、柏原市図書館協議会条例第 5 条第 2 項に委員総数の 1/2 以上の出席が成立要件となっております。本日の出席者は委員 10 名中 8 名が出席されておりますので、協議会は成立しております。それではまずはじめに「役員員の提出について」を議題にさせていただきたいと思っております。本協議会の会長及び副会長の選出をお願いしたいと思っておりますが、どのようにさせていただきますでしょうか？

<委員>

—事務局一任—

<事務局>

ありがとうございました。ただ今事務局一任との声がありましたので、会長は大阪教育大学の高鉾准教授に引き続きお願いしたいと存じます。本日は公務で欠席されておられますが、学校教育関係者で旭ヶ丘小学校校長の大木先生に副会長をお願いしたいと思います。大木先生にはお願いいたしておりまして、了承をいただいております。ご異議なければ拍手をもってご承認をお願いいたします。

<委員>

—拍手—

ありがとうございました。それでは高鉾会長からごあいさついただきます。

<会長>

この度は選出いただきました。改めましてよろしく申し上げます。図書館を取り巻く環境は決して楽なものではないのですけれども、全国見渡しても。ただその中でもこの柏原市立図書館は、1 つには人口規模に比べると少し大きめの館があるという事と、今でも直営でがんばっている。直営でない館がだいたい 15%ぐらいで、そういう意味では委託であったり指定管理であったりそういうのが増えてきていますけど、今のところそういうかたちにはなっていて、きちっと柏原市の職員の方が図書館業務に携わっているという意味でまだがんばっている図書館かなと思います。そういう中で様々な事業は行われていくと。その事業について図書館協議会に事務局の方からお諮りいただいて、それを協議会として協議してよりよい物にしていこうと、そういうシステムの理解だと思っておりますので、皆様ぜひご自由にとか関連な意見交換をよろしく申し上げます。ありがとうございます。

<事務局>

ありがとうございました。それでは協議会条例第 5 条第 1 項により会長が議長を司る事になっておりますので、これからは高鍬会長に議事進行をお願いいたします。

#### <会長>

それでは、議事次第に従いまして議事を進めたいと思います。はじめに「平成 30 年度の事業進行状況」を事務局からご説明願います。

#### <事務局>

失礼します。私の方から平成 30 年度の図書館事業執行状況について報告させていただきます。お手元資料の「柏原市の図書館平成 30 年度」、こちらをご覧ください。すいません、時間の関係上主な項目をピックアップさせていただきます。はじめ 1 ページから 10 ページまでを割愛させていただきます。11 ページ、こちらをご覧ください。11 ページの 7、統計の蔵書状況につきまして柏原図書館の一般書、こちらが 9 万 1163 冊、児童書の方が 4 万 2379 冊、計 13 万 3542 冊です。続きまして国分図書館の一般書が 6 万 5539 冊、児童書が 3 万 5454 冊、計 10 万 993 冊。両館合計で、一般書が 15 万 6702 冊、児童書が 7 万 7833 冊、総合計 23 万 4535 冊の所蔵でございます。続きまして 13 ページ、こちらをご覧ください。(2)登録者状況という事で、登録者人数の推移を記載しております。平成 30 年度の登録者人数は 4 万 5335 人でした。また次は柏原地区、堅下地区、堅上地区、国分地区の地域別、年齢別登録者人数を記載しております。続きまして平成 30 年度の実利用者人数の推移です。実利用者人数は 9086 人でございました。続きまして 18 ページ、こちらの方をご覧ください。18 ページの④、最近 5 年間の利用状況の推移でございます。平成 30 年度の 1 日当たりの利用人数は 326 人、そして 1 日当たりの貸出冊数 1191 冊、開館日数が 346 日、利用者人数が 11 万 2638 人です。貸出冊数の内訳としまして柏原図書館 20 万 3379 冊、国分図書館が 18 万 4999 冊、そして移動図書館ひまわり号、こちらが 2 万 3860 冊、貸出し合計が 41 万 2238 冊でございました。続きまして 21 ページをご覧ください。21 ページ⑦、予約受付件数を記載しております。受け取り館別予約件数ですが、柏原図書館受け取りが 1 万 3508 件、そして国分図書館受け取りが 1 万 2367 件、合計 2 万 5875 件でした。次に図書館窓口と利用者端末の OPAC、予約受付件数ですが、柏原図書館受付が 4987 件、国分図書館受付が 6790 件、合計 1 万 1777 件でした。またウェブ、インターネットからの予約は、柏原、国分合計で 1 万 4098 件でございました。続きまして 23 ページ、こちらをご覧ください。23 ページの⑨番、団体貸出といたしまして柏原、国分、合計で 1 万 1636 冊、内訳としまして保育所、幼稚園、小学校、中学校、小学校学童保育、幼稚園図書支援指導員、小学校図書支援指導員、お話し会、スタディーアフター、その他でございます。続きまして 24 ページをご覧ください。24 ページ⑩番、総合貸借の内訳でございます。府内市立図書館からの借受冊数、こちらが 1508 冊、貸出冊数が 1015 冊でした。また大阪府立重要図書館を合わせますと借受冊数が 2435 冊、そして貸出冊数が 1081 冊でございました。次に 27 ページをご覧ください。(4)実績の指標です。順番に申し上げます。A.平成 30 年度末人口が 6 万 9086 人、B.実利用者数 9630 人、C.柏原市市民の実利用者数が 9086 人、D.人口に対する実利用者数が 13.15%、E.職員数が 28 人でございました。F.利用者数 11 万 2638 人、G.柏原市民の利用者数 10 万 4168 人、H.貸出冊数が 41 万 2238 冊、I.柏原市民への貸出冊数は 38 万 45 冊、J.蔵書冊数 23 万 4535 冊です。K.年間受入冊数、寄贈本などを含みまして 1 万 184 冊、L.図書館費決算額が 1 億 2688 万 4000 円、M.図書購入費決算額が 899 万 9000 円、N.蔵書回転率、貸出冊数割る蔵書冊数で 1.76 冊、O.開館日数 346 日、P.1 日当たりの貸出冊数は 1191 冊、Q.1 日当たりの利用者数が 326 人、そして R.市民 1 人当たりの貸出冊数が 5.50 冊、S.市民 1 人当たりの蔵書冊数 3.39 冊、T.市民 1 人当たりの年間受入冊

数、こちら 0.15 冊、U.市民 1 人当たりの図書館費 1837 円、V.市民 1 人当たりの図書購入費 130 円、W.有効登録者 1 人当たりの貸出冊数が 43 冊、X.職員 1 人当たりの奉仕人口こちらが 2467 人、Y.職員 1 人当たりの貸出冊数 1 万 4723 冊でございました。その他のページにつきましては行事に関する事を掲載しております。後程ご覧になっておいてください。簡単ではございますが私からの説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

<会長>

ありがとうございます。ではただ今の「平成 30 年度の活動報告」について何か質問はございますでしょうか？では僕から、13 ページ登録者状況の中で、どうやら登録者数自体は平成 29 年から 30 年に上がる時に結構増えてるという事になるかと思えます。ここでいう登録者は主に登録者ですよ？実利用者じゃなくて。つまり柏原市図書館の有効なカードを持っているという意味で。ちょっと確認ですが、カードの有効期限は何年ですか？

<事務局>

3 年になります。

<会長>

そうすると平成 28 年から 29 年のところで 3000 人ぐらい減っているのは？

<事務局>

有効期限は 3 年ですけども、除籍するのとはまた違うので。29 年度は正直除籍をかけたので減っています。

<会長>

多く除籍があったという？

<事務局>

そうですね。

<会長>

そこからまた登録者がいて、結局。

<事務局>

はい、そうですね。また増えたってかたち。

<会長>

ちょっとそこが不思議だったので。その登録人数が増えているのに実利用者数はやっぱり減っている。実利用者数自身は毎年同じぐらい減っているの、その意味ではちょっと辛いところではあるのですが。それから登録者数が増えているというのが不思議だったのですが、これはむしろ 29 年度に除籍をかけた結果っていう事ですね。なるほど。色々数字見せていただきまして、思うのは 27 ページの実績の指標というところですけども。もう少し、人口に対する実利用者数があってもいいかなという気はします。もちろん登録率とだいぶ違うので、13%ぐらいっていうの

がある種標準的な姿と言えない事もないのですが、やっぱり活発な図書館だったら 20%か 25%ぐらいになっているかなと思うところなので、それを目指していただきたいと思うところです。次に、これは毎年同じ事を気にしているのですが、M の図書購入費ですね。だいたい 900 万円という事ですが、2 館で 900 万という事になると 1 館当たりになると 450 万という事で、これは日本の標準的な数字から見るとほとんど半分に過ぎないという状況ですね。先程頭のごあいさつのところで、館の数に関してはちょっと多くなって申しあげましたけれども、人口がだいたい 7 万人ぐらいいて 2 館あるって事は、1 館当たり 3 万 5000 人ぐらい。日本の平均だと 1 館当たり 4 万人ぐらい利用者がいます。日本だいたい 1 億 2000 万か 3000 万ぐらい人口がいて、図書館が 3300 とかそれぐらいあるので、計算するとざっと 4 万人に 1 人の図書館という事になると。そこから考えると館の数は人口に比べて少し多い。加えて移動図書館もあるわけですから、そういう意味でその部分に関してはある程度積極的な評価できる場所です。でもその 2 館に対して、通常 850 万とか 900 万ぐらい出される、1 館当たり資料費が 450 万しかないって事になると、とやっぱりこれは全国平均から見ると少ないと言わざるを得ないところですね。もちろん図書館でがんばってどうなる問題ではないんですけども、むしろそれは議会への働きかけとか市議会議員の方とかが図書館にもっと予算をつけていう主張をしていただかない分にはたぶんどうにもならないところだとは思いますが、ここに関して何かの改善の方法とか、何かお持ち、あるいは構想しているものはありますか？

#### <事務局>

一応去年のちょっと私も議事録とか見させてもらいまして、先生の方からも蔵書の新鮮度がやはり図書館の魅力に繋がるという事で、うちの図書館の場合 29 年度末で 23 万 5589 冊、受入が 9931 冊と。蔵書の入れ替え率が 4.2%やったという事で。30 年度の実績ですけども、30 年度は先程、報告あったのですが、一応 23 万 4535 冊の蔵書数に対しまして、受入冊数が 1 万 184 冊となって、蔵書新鮮度がまだ 4.34%という事に留まっておりますので、とりあえずこの蔵書の新鮮度を 5%にとりあえずクリアできるように令和 2 年度、ちょうど今から実施計画の方、図書館購入費拡充事業という事で実施計画上げていきまして、また財政部門ともまた協議して 1 円でも多く予算が獲得できるようにがんばっていきたく思いますので、お願いしたいところがございます。よろしくお願ひします。

#### <会長>

ありがとうございます。蔵書の新鮮度、全国平均がだいたい先程言うていただきましたように 5%ぐらいという事になっていますね、全国平均で。だからより活発な図書館だったらより高い蔵書新鮮度を持っている。これはもう昔々の話ですけども、1992 年に文部科学省が出した「公共図書館の望ましい基準」の中では、5 分の 1 を入れ替える事が望ましいと言っています。20%ですよ。もちろんそこまでいっている場所はたぶん日本全国探してもないんだと思いますが、目標の数値としては少しは頭に持っておいてほしい数字になります。5%は全国平均で、それをクリアしたら平均的ではあるんだけど、ちょっと活発とは言いづらいというところですね。ただそうは言うものの R ですね。市民 1 人当たりの貸出冊数は先程申しあげましたように蔵書購入費が全国平均の半分程度しかないのにも関わらず、市民 1 人当たりの貸出冊数は 5.5 万という事で、たぶん平均ちょっと上ぐらいになっている。つまり柏原市民の方は大変よく本を読んでいると、そういう見方ができるかと思ひます。その意味で図書館として提供しているのが全国平均に比べると若干貧弱だという事実を見た上で、それでも柏原市民の方はよく図書館を利用して自分達の文化的な資産を活用して、あるいは自分達の中にそういう文化的な資産を蓄積していってほしい、という事ができます。その意味でもっと資料費があったら、もっと伸びるんじゃないかなと。倍資料費あったら、つまり全国平均になったらこの数字は倍どころではなく伸びるんじゃないかなという、期待を僕は毎年持ってここにいます、

市民の方は大変よく、図書館が提供している本に比べると非常によく図書館を利用してくださってるという風に判断をできる数字かと思います。そういう市民の方の要求に応える努力を、図書館としても続けていただきたいと思うところです。数字を見て僕が思うのはそういうところかと思います。何か他の方で聞いておきたい事ありますでしょうか？特に大丈夫でしょうか？

<委員>

市民 1 人当たりの貸出冊数が多いという事ですが、それは柏原の蔵書のための貸出冊数ですか？それとも広域と合わせてよそから借りてきたものがあるものですかね？

<事務局>

こちら広域も合わせまして全て合わせましての計算です。

<委員>

ありがとうございます。

<会長>

他、何かございますでしょうか？

<委員>

平成 29 年度の 13 ページの資料なんですけど、新規登録者人数の説明ですけど、有効期限 3 年のカードを持っている人の人数が実利用者より少ないというのは、カードは持っているけども利用していない人が結構多い？

<事務局>

カード毎年作られていくと当然の事ながら登録者数が増えていきます。今回除籍したのは過去 15 年間利用されてない方のデータといいますかカードです。3 年間とかいうわけではなく、また来られたりするので、小さい時作られて。15 年間使われたらちょっと来ないかなというところで、そうじゃないとどんどん増えていって、極端になれば人口以上にカードの方が増えてしまう。転居や亡くなられた方など、届けがあればいいんですけど、なければそのままの状態が残ったままになるので、とりあえず 1 度ちょっと 15 年間使われてない方は除籍しようという事で除籍させていただきました。

<委員>

なので 15 年使っていない人をつて。

<事務局>

はい。対象にしました。3 年間とかカードの有効期限とはまた別な考え方です。

<委員>

新規登録っていうのはだいたい年間何人？

<事務局>

年間 1800 辺りですかね。ざっくりですけどね。

<委員>

毎年、毎年だいたいそのぐらい？

<事務局>

そうですね。ざっくりですけどだいたいそれ前後ぐらいで推移してますね。

<委員>

もう少し登録、カード持ってるけど利用してないっていう人が結構いる辺りで、実利用者数が 9086 人ですからね。どんどん図書館にいらっしゃるのが遠のくんではなくって、何かまたずっと来てもらえるようなものがあつたらなっていうところもあつて。

<会長>

他、何かございますでしょうか？特にないようでしたら、では平成 30 年度の活動報告についてはこれで 1 度終わりにいたします。次に「令和元年度主要事業」について事務局からご説明をお願いします。

<事務局>

私からご報告させていただきます。令和元年度の主だった事業として抜粋して説明させていただきます。この 9 月 25 日ですけども、国分図書館の方でぬいぐるみの図書館のお泊り会とお話し会という事で、これはうちにあるぬいぐるみと一緒に話し会の方を楽しんでいただいて、ぬいぐるみだけを図書館にお泊りしてもらうという、これ毎年恒例の事業となっております。続きまして 10 月 27 日にはお話しの森 2019 と題しまして、話し会、スタンプラリー、ワークショップ等を行いまして、地域の店とタイアップしたマルシェを通じて図書館への来館のきっかけ作りと地域との連携を図る事業を開催していく予定しております。こちら両方とも国分図書館で実施するものでありまして、去年たしか柏原図書館の方でも何かやっていたような事を何かしてもらったらどうやっていうちょっとご意見があったとお聞きしましたので、ちょっとまだ大まかには決まってないんですけども、こちらが小さいお子さんとか若いお父さん、お母さんとかそういう方対象にされた事業を積極的にやっていたので、柏原図書館の方では高齢者に楽しんで笑って元気になっていただくような事業ができればという風に考えております。例えばちょっと今考えているのは落語ですね。落語は大変認知症予防にも効果があると聞いておりますので、ちょっと内容についてはまだ未定なんですけども、落語をベースに図書館と地域住民を繋ぐ事業を開催して、図書館に来ていただけるきっかけ作りとなるような事業ができればという風に考えております。またかたちになりましたら、今年度中に実施できるか、まあ予算の関係もございますので、よくちょっと柏原図書館の職員の中でよく話を盛りまして、また決まりましたらまた SNS、広報等でもまたご報告させていただきたいと思います。この流れですいません、資料 2 の方ちょっと。重点取り組みという事でちょっとご説明の方に入らせていただきたいと思います。まず 1 番になります。移動図書館車更新事業についてという事で、資料 2 ご覧ください。こちらなんですけども、現行の移動図書館車ひまわり号、こちらが平成 17 年の 3 月から図書館から遠隔地にあたります市内 10 ヶ所の巡回場所に、

2週間に1度の割合で、月2回本館と同様の図書館サービスを提供してきましたのですが、図書館車が経年劣化と手動のミッションタイプでございまして、運転できる者が限られておりましたので、去年30年度に更新を財政課等に実施計画等で検討してきました。まあ財政部門の方から、市の財政状況から市の単費等ではちょっと更新は難しいんじゃないかという事で、色々助成金とか補助金とかメニューを探しまして、コミュニティー助成事業補助金、助成金ですね。これ宝くじの助成金になるんですけども、こちらを申請しまして平成31年の4月に1000万円交付の決定が下りましたので、すぐに移動図書館車の柏原図書館で使用する形式を検討しまして、6月の補正予算の方に計上して、実は先日の8月27日に入札の方で契約相手方も一発で決まりまして、令和2年の3月に納車予定の上、巡回場所への運行を開始する予定でございます。先程司会の方から説明なかったんですけども、別冊で資料3-1という事で付けさせていただいております。一応これ入札の時に使った資料なんですけども、私も4月からきてましてちょっと最初私がそういう絵心もない、デザインちょっといろんな考えたんですけども、上からももっとええの考えろいう事で急遽色々英知を尽くしまして、これ見ていただきますように後ろにはカシオン柏原の商工会の方に了解もらっておりますし、3-2で、これ一応柏原図書館っていうか国分図書館のイメージのキャラクターでこくぶくんっていうものなんですけども、こちらをちょっと子供さんから老若男女の方まで移動図書館車が行った時に気軽に移動図書館の方で本を借りていただけるようなデザインという事で考えております。一応ちょっと市のちょっとあれも入れたかったんで、一応右の3-3見ていただきましたら、去年60周年事業で柏原というこれ結構うちわとかで見ていただいた事あるかなと思うんですけどそれも入れさせていただいて、ひまわりの絵も入れて、ひまわり号が令和2年の3月から運行させていただく予定しておりますので、また近くに来た時は1度本を借りていただいて、うちのいつもの職員がいて、色々本のレファレンス等もやっておりますので、またご利用賜りたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。次2番なんですけども、すいません、こちらにつきましては先程新子教育長からも、高鍬教授からもご説明いただいたとこなんですけども、図書購入費について先程説明ありましたように、平成24年からずっと2館で900万という事になっておりました。このところ限られた予算でベストセラーであったり市民さんからのニーズ、要望等とかも鑑みまして、色々分類別にバランスよく選書して本を購入して入れ替えていってるとこなんですけども、児童の調べ本、例えば戦争とか歴史とか環境問題、外国文化とか動物の生態等色々そういう調べ本がちょうど置いておまして、それがなかなかこの900万の予算の中で色々買い替える中で、結構そういう本っていうのはセット物になってまして、入れ替えるとなるとそこそこの費用を取ると。それから優先順位もいろんな本を買う中で、なかなかそこにこの900万の中で予算がなかなかあたらぬという事で、市議会議員の先生の手も借りて、また財政とも協議しまして、令和元年度の予算から一応別立てで60万予算を確保する事ができました。この分で令和5年まで300万で児童の調べ本の入れ替えを適時行っていくという事で予算確保ができております。これ960万って60万増えたとこなんですけども、これとは別に先程高鍬教授からもおっしゃっていただきましたように本の新鮮度が上がれば図書館にもっと来館者が増える、魅力ある図書館になるという事で、引き続き財政とは予算につきましても協議していきたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。最後3番になるんですけども、柏原市立図書館、雑誌スポンサー制度についてという事で、これ結構近隣の図書館なんかでも入れられて取り組まれているとこなんですけども、簡単に言いますと柏原図書館、国分図書館で購入しております雑誌があるのですが、それに事業社、企業さんとか団体さんとか、その方々に購入費用を負担していただきまして、その雑誌の裏面に事業広告を付けたり雑誌の表紙や書簡に企業名や団体名を掲示させていただきまして、その雑誌を広告媒体として活用する制度でございます。こちらにつきましては雑誌のスポンサーになっていただきましたら、その余った予算につきましては他の費用にあてる財源等になりますし、地域の企業さんとか団体さんの地域の経済の活性化にも期待できるという事で準備しております。一応今準備してありまし

て、今年度の 11 月から制度開始させていただき予定しております。この制度始まるにあたりましてはまた柏原広報、柏原市のホームページ、図書館のホームページ、それから館内の掲示およびチラシ等で配布して色々あたっていきたいと思います。それから柏原市の商工会の方にも声掛けさせてもらって、そういう図書館の雑誌のスポンサーになっていただける方はいないですかという声掛けもしていきたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。またこちら今日来ていただいた議員さんでもし「こんなやつたてで」っていう企業さんとかありましたら、我々またお伺いさせてもらってお願いにも上がりますので、声掛けいただけるのであればまたご紹介もよろしく願いしたいと思います。以上でございます。

<会長>

ありがとうございました。それではただ今の令和元年度主要事業の説明について、ご意見又はご質問等ありますでしょうか？いかがでしょうか？ちょっとだけ個人的な興味なんですけど、移動図書館車、新しいのはどれぐらい本が乗りますか？

<事務局>

実はここにも書かせてもらってるんですが、今の図書館車 2000 冊乗っているんですけども、今度のやつは一応 1200 冊という事になってます。いうのは、柏原市山間部が多くて雁多、とか青谷っていうかなり道の狭いところ、軽 4 などが通れないようなところにも行ってございまして、そこに行くにあたりまして車を若干小さくして。それとは別に今度はオートマ車にさせてもらいまして、今のところ職員がちょっと限られていてその方に負担もかかっているところもありますので、今度は若干車の規模も小さくする代わりに、もちろん図書館に来られない方でこの本を移動図書館車で持ってきてというサービスは引き続き、要は効率良くさせていただき予定しておるんですけども、本が乗るのは一応 1200 冊という事で考えております。よろしく願いします。

<会長>

今までのやつはたしか大型免許がないと運転できないと思うんですけども、新しいやつはじゃあ普通免許で？

<事務局>

普通免許で乗れるようになっております。私も乗りますので。

<会長>

難しいですね。冊数はもちろん多い方がいいんですけども、しかしそれで特定の方に負担がかかったりとか、あるいは行けない場所があるっていう事になると。たしかに小さい方が便利は便利かもしれない。

<事務局>

まあ小さくなるといっても車自体はあれで、結局書架を乗せた時に重量が今は 5 トンぐらいあるんですけども、3 トンぐらいにせなあかんという事で書架を外に今度は両方も左右共付けれるようなかたちになってございまして、例えば「障害者の方とかが来た時に高いところ取られへんの違うんか」っていうご意見とかもいただいたんですけども、その時は 2 人職員が常に色々来られた方に対応させてもらいますので、充分配慮させてもらって取り組んでいく予定しておりますので、その辺も配慮して取り組み皆様によろしく願いしたいと思います。

<会長>

なるほど。関連ですけれども、現在の移動図書館の巡回場所は10ヶ所となってるわけですが、車が移動しやすいものになるんだったら、今まで行けなかった場所に行けるとかそういう事は？今すぐ検討してほしいという意味ではないんですけども、将来的には検討は可能だという事ですか？

<事務局>

そうですね。今の行ってる場所というのがどどこ地域の会館の、要は周知のところに車を停車させて行っておりまして、もちろんその児童の方が本をより借りていただけるように今堅上小学校のグラウンド、あちらの方にも行かせておりまして、また学校さんの方とも協議して、もしグラウンドとか車とか入れさせてもらえるのであれば、そこに出向いたりしたらもちろん子供さんとかの本の貸出冊数も増えるし、図書館に来ていただかなくても。そんな事は今後検討していきたいとは思っております。以上です。

<会長>

何かありますでしょうか？

<委員>

3番の雑誌のスポンサー制度についてなんですが、どのように張り付けるんですか？それと月決めなのか年契約なのか、後、広報等での周知方法をどのようにしているのか、まずそれからお聞きしたいと思います。そしてサンプルがあったら教えていただきたいです。

<事務局>

一応今先生おっしゃっていただいた、11月から始めますので、もし11月に仮に申し込みがあった場合は1度3月で切らせていただいて、更新していかってというご確認をさせてもらって次1年更新というかたちにしようと思っております。一応最新号が国分図書館も柏原図書館もそうなんですけども、1番表の書架の棚に来ておりますので、一応表面に縦が8センチの横13センチぐらいで「何々企業様ご提供」と。裏面にその企業様のご紹介とか企業の内容とか地図とかそんなものを貼り付けていただくという事で、結構この近隣であったら藤井寺市もそうですし羽曳野市さん、富田林市さんみんなやられてまして、結構やはり宣伝効果があって。例えば富田林市で聞いたのは「女性のクリニックさんがやられて、結構3誌ぐらいやっておられる」と。もちろんそれは女性の方が見られる雑誌にももちろん広告を載せて、結構効果が上がってるんで毎年、毎年更新してやっていただいているという事もお聞きしてますので、お聞きしたのは待ってるだけではなかなかやっばり来られないという事なので、私もたまたま商工会さんの局長さんもよく存じ上げておりまして、「もしこういう事図書館でやるんやったら、また商工会の会員さんにも紹介させてください」言ったら「してええよ」という事でご了解もっておりますので、まあ広報とかもちろんホームページ等では待ち受け画面ではなかなか来られないと困りますので。またそういうやってもええよとか悩まれてる方がいらっしゃいましたら、私ら足運ばせてもらいましてこの制度について説明してなんとかやってももらえるように取り組んではいきたいとは思っております。どんなものかいいますと。

<委員>

だいたい帯みたいなもんですね？

<事務局>

そうですね。ちょっと今。ちょっと汚いあれで、こっち回していただくとありがたいんですけど。一応そんな感じで。すいません、まだ今素案の段階ですので。図書の裏面にそういうかたちで広告を貼ってみなさんに見ていただくという。

<委員>

それと数値目標、何社ぐらいだいたい目標とされて3月末まで取り組まれるのか。それと新年度4月から1年間どれぐらいの企業数を目標に立てているのか。だいたいどれぐらいの収入入るんですか？それ。

<事務局>

雑誌の要は購入費ですね。雑誌の購入費がだいたい1年、色々単価があるんですけど7000円ぐらいから1万円ぐらい。雑誌の月毎に出るやつもあれば毎週出るやつとか。どの雑誌のスポンサーになっていただくかによっても変わってくるんですけども、ちょっと我々も今数字目標言うてあれですけど、とりあえずなるだけ多く3月までになっていただいて、ちょっとあても目ぼし付けてるともございますので、何社か言った方がよろしいですか？

<委員>

いやいや。議事録残るんでいらなと思いますけど。まあ目標数値に達成できるように取り組まれたらいいなと思います。これ最後ですね、この雑誌のスポンサーでそういう風なかたちをするっていうのは、別に法的には問題ないんですね？雑誌にはそれぞれの高いお金出して、その雑誌を作るために広告出してるわけですよね。それを1番おいしいどこ取りして市民にPRっていうのは、まあよそでやってるケースもあるんですけども、法的なところっていうのは？

<事務局>

その辺につきましては柏原市の方の広告掲載要綱っていうのがございまして、うちもそれに乗かって今までのそちらの方で広告してもらえないかという事で、平成24年ぐらいからやって、1回も実際のところ広告を上げていただいた事がないと。何かええ策がないかという事で近隣の図書館さんでスポンサー制度あるという事で、市の歳入にお金を入れずに企業さんの方でもう図書を買っていただいて柏原図書館、国分図書館に入れていただくっていう制度の方が運用上使いやすい事。今要綱作っておるんですけども、これも市の広告掲載要綱と基準もございまして、そちらに準じて合わせて当てて作っておりますので、法的には全然問題ないのでよろしくお願ひします。

<事務局>

すいません。これ素案の段階でださせていただいているかたちになってると思うんですけど、教育委員会の中でもまだまだこれから議論もしないといけないですし、また先生方の方にもご報告もさせてもらわないといけないと思っておりますので、もうちょっと詳細事項が出来上がりましてからまたきちっとご説明にうかがおうと思います。そういう事でよろしくお願ひいたします。

<会長>

他に何か質問ございますでしょうか？

<委員>

ひまわり号なんですけれども、堅下小学校？

<事務局>

堅上小学校。

<委員>

前に堅下幼稚園の園長先生から「ひまわり号が園庭に来てくれたらうれしいな」というような話を聞いています。もしできればそういう学校や幼稚園の中へ行っていただけるとうれしいなと思います。堅下幼稚園。

<会長>

ご要望という事ですね。他、何かございますでしょうか？他、特にならなければいいです。

<事務局>

すいません。資料1のちょっとまだ説明があつて。

<事務局>

その資料についてちょっと児玉の方から。

<事務局>

ちょっとまだ説明をできていない資料があるので説明させていただきます、よろしいでしょうか？それでは平成30年度、柏原図書館統計資料1の説明をさせていただきます。まず1ページ目の柏原市立図書館図書購入費ですが、平成10年度から記載させていただいております。毎年だいたい1000万から900万前後で推移していますが、平成16年度国分図書館の開館により2館体制になりましたが、1000万円から900万円で推移しています。市の財政事業も厳しい事なかなか増額が認めてもらえないんですけれども、そういう実情があるなかで、2館でしたら倍になってもおかしくはないんですけれども、事実上は1館当たりになりまして450万円の資料費になっております。次に②ですね、柏原市の人口の推移ですが、全体で7年前と比べまして94.9%まで人口が落ち込んでおります。それを踏まえまして2ページ目の③に移らせていただきまして、実利用者人数の推移です。先程申し上げました実利用者的人数ですが7年前と比較していますが実利用者数は82%に減少しておりまして、柏原市の人口の減少率94.9%よりも少し落ち込んでいますので、人口以上の利用者の方が実際減っており、13%ぐらい落ち込んでおります。そして次に3ページ、④年齢別利用率の推移です。実利用者人数を柏原市の人口で割ったものになっております。7年間の推移ですが13歳から39歳の世代の利用率がだいたい3%から5%の減少をしているのがわかると思うんです。後、7歳から12歳、小学生の方は人口の約47.4%が図書館を1年間に1回以上1番多く利用されてるのがわかると思います。一方19歳から29歳と50歳から59歳、70歳以上の方があまり図書館へ来られてないのが目立っております。その次に⑤ですね、年齢別利用冊数の推移の7年間の推移です。7歳から12歳と70歳以上の読者数が増えており、やはり19歳から29歳のところが57%まで落ち込んでおりまして、

4割程度落ち込んでおります。高齢者、70歳以上の方と子供さん7歳から12歳だけが伸びている状況であります。これは人口を考慮していないので、高齢化が進んでおりますので、70歳以上の方が161%伸びておりますが、実情はそれほどでもないかと思っております。そして次の4ページに移りまして⑥年齢別利用冊数と人口という事で、1年間に本の読まれてる本の冊数を人口で割ったものです。小学生の方が7歳から12歳は多く、1年間に20冊、30年度ですけれども読んでおり、7年前と比べますと133%の増減率になっております。0歳から6歳は伸びているんですけれども、自分であまり来られる事はないっていうか来れないので、お母さん方と一緒に利用されているのではないかとは思っております。その中で19歳から29歳の方がどうしても人口に対して36%程減っているのが目立っております。次に⑦利用者人数の推移ですけれども、こちらの統計は申し訳ないんですけれども八尾と東大阪の利用者人数がどうしてもシステム上除く事がちょっとできないので入っております。それで参考程度に見ていただけたらと思っております。全体で95%なので7年前に比べますと5%減っております。5%だけなんですけれども、やはり19歳から29歳56%なので4割ぐらい減っており、30歳から39歳の人もやはり68%で3割ぐらい減っております。その中で高齢者だけがよく来られると。年齢と共に足を運ばれる回数が多くなっているのかなと思っております。次に5ページいかせていただきます。⑧利用者人数と人口ですが、1年間に図書館に来られる回数になります。小学生が一番多く、1年間に4.2回です。それ以外は2回も来られていない状況です。高齢者の方がよく来られるように図書館では感じているのですが、実際に小学生が図書館に来られる機会は平日あまりないと思うのですが、土日しか来る機会があまりよくないのかなとは思っております。それで土日によく小学生が来られてるんじゃないかとは思っています。その次に⑨ですね。利用冊数と実利用者数で割ったものなんですけれども、図書館に来られてる方が何冊読まれているかというものなんですけれども、昔に比べて増減率を見ますとほぼ全部が100%超えています。これから見ると図書館に今まで来られた方、7年前に比べて本をよく読まれてるっていう事がわかるかと思えます。逆に言えば利用者人数なんですけれども全体としては減っていますので、図書館に今まで来館されてる方は今まで以上に本を読まれてる。来館しないとか来れない方は極端に言いましか、来られる方は今まで以上に本を読まれて、来れない方が逆に図書館に来館される方が減っているのが読み取れるかなと思っております。以上で柏原市立図書館統計資料の報告を終わらせていただきます。

<会長>

ありがとうございます。それでは今の柏原市立図書館の統計資料を見て、何か質問あるいはご意見等ございますでしょうか？どっと数字が出てきてどう判断しているのか難しいところですが、最後の方、5ページ目辺りを見ると、要するにライトユーザーと思われてた人達が図書館から離れていって、ヘビーユーザーだけ残ってるという、そういう状況なんですか？

<事務局>

そうですね。

<会長>

図書館が、より一部の人だけ使ってるものになっていくという事になりますので、図書館のあり方としては望ましいものではないと判断せざるを得ないところかと思えます。幅広くいろんな人に使ってもらわない事には図書館の理念としてはあんまり適切ではないので。その意味で利用者数が減ってるっていう事と、利用冊数が、実利用者が減ってるのに増えてるっていう事を考えると、図書館に来ない人が来ないってある程度しょうがないところがある

んですが、その「何か自分に楽しいものがあるんだっいたら行きたいんだけど、行ってもしょうがないな」って思う人に対して、何か働きかける必要があるという読み方でいいですか？

<事務局>

はい。そうですね。来られない人に対して何かまた新しい資料というか。

<会長>

来られない人なんですけど、来られないというか「ちょっと興味はあるんだけど今の図書館だったらあんまり行ってもしょうがないかな」って思ってるっていう、そういう人が。かつては来てただけどもちょっと今の図書館は行ってもしょうがないっていう風に判断されてるように僕には思えます。図書館大好きな人はべったり張り付いてしっかり利用してる。それは今まで変わらず利用してるわけですけども、ライトユーザー、「図書館にちょっと興味あるけど、行ってあんま楽しくなかったから行くのやめとこうか」っていう、それぐらいの人が離れていった結果利用者数が減って、見かけ上 1 人当たり利用数が増えてるというカタチかなと思います。そういう、ちょっと興味はあるんだけど今今の図書館だったらっていう人に対してどういうアプローチができるかっていう事ですよ。それはおそらくは図書館の中でやってもしょうがないです。図書館の中で何かをしてもすでに利用者である人しか来ませんから。何らかのかたちで図書館の外に対して。ただ図書館に全然興味ないっていう人ではないと思うので、全然興味ないっていう人ではなく、ちょっと興味はあるという人に対してどういう事が響くかなという、そこがポイントかなという気はいたします。何かご意見等ございますでしょうか？

<事務局>

ちょっとよろしいですか？7 歳から 12 歳とかいうのが結構数字的にはいい感じになってると思う。これはやっぱり図書館の職員が色々マルシェであったりおはなしの森であったり、いろんな事を考えて子供さんが喜ぶ事をされてきたという事が、私にとっては結構大きいんじゃないかなと思ってるんです。だから他の年齢層の方で、おそらくこの 19 から 29 はネット社会がものすごい発達してるのもものを読むよりスマホで読むという方も多いとは思いますが、いろんな意味合いでそういう風に今伸びてるところを再検証させて、他の年代にもこういう事をやったら喜ばれるんじゃないかってよないう事を今後また色々検討して行って、それに合わせた事業を図書館としてまた手掛けられるように私ら協力してやっていこうと思っていて、この年齢別を聞くというのが色々な考え方で。

<会長>

おっしゃる事はその通りだとは思いますが。例えばぬいぐるみのお泊り会とかそういう事業があって、それが低年齢というか小学生ぐらいの子に響くっていう、それはそうだと思うんですけども、メディア利用に関しては図書を読むっていうのとネットを使うっていうのはむしろ親和性があるっていう調査結果が出ています。本を読む人はネットを見るんです。テレビだと逆になります。テレビ観る人は本読まないっていう事になり、負の相関性を持つんですけど、ネットに関してはネットをする人は本を読む。逆もいえる。本を読む人はネットもするし、その逆もいえるっていう事が調査で出ています。だから調べたい人はネットでも調べるし本でも調べるんです。なのでネットがあれば済むっていう、それで図書館が嫌われてるっていう事は違うのではないかと個人的には思うところです。もちろん母集団が違いますから、大きな全国的調査と柏原市を対象にした内容は少し話が変わります。ですので単純に言える話ではないんですけども。

<事務局>

私が申し上げたのは全体的にそうではなくて年齢層でかなり違うので、よく使う人のところがそうではないのかなって  
いう私見を述べさせてもらっただけなので。やっぱり図書館としては年齢層に応じた何か楽しんでいただけるよう  
な事を今後は考えていく必要があるんやろうなと、そういう風に考えてますので、そこについては色々図書館の方  
でもいいアイデアを結構出してると思うので、引き続きがんばっていきなかなという風に考えております。

<会長>

ありがとうございます。

<事務局>

ちょっとすいません。ちょっと補足で、今日いつもさっき事業で触れられてなかったんですけど、地域ボランティア  
さん、31 ページの冊子ですけども。井之浦さんと久保さん来ていただいてあれなんですけども、一応柏原市図書  
館とボランティアさんの方で共同でこういう紙芝居とかお話し会とか、正月とかであれば百人一首大会とか、色々  
こういう事業をやっておるとこなんですけども、4 月に会議した時になかなか来られる方がこれ見ても、まあ天候と  
かもあるんですけども少ない時やったら児童が1名で一般の方1名、親御さんと2名の時とか少ない時もあるいう  
事で、なんとかもっとその事業に参加していただける方をもっと増やせないかいう事でちょっとご相談いただい  
ておまして。我々も何か知恵出して何かできないかいう事で、市内の公共施設の方、公立保育所、公立幼稚園、  
認定こども園、それから市立の幼稚園と保育所の方にこの事業のチラシの方を、いつも広報とかホームページと  
かそういうのには載せてもらってるんですけども、そちらの方にお問い合わせにありがたしまして、約21ヶ所あるんすけど  
もチラシの方貼らせていただきまして、先程もちょうとニシザワさんの方からこの8月24日でしたかね？去年の17  
名の参加やったのが今年度は30名来ていただいたという事で、大変。ちょっとこれは1年間数字取らないとちょっ  
とこの効果がどうなのかっていうのはわからないですけども、そういう図書館の事業も見直しをしていかなあきませ  
んけども、ボランティアさんとの共同でやってる内容につきましても精査して、またよく図書館の方に1人でも足運  
んでいただけるような取り組みと、僕らできる事があればやっていきたいと思っておりますので、その辺よろしく願  
いしたいと思います。

<会長>

他、何かございますでしょうか？

<委員>

本当にボランティアの方とかが一生懸命やってくださってる年間を通した取組が積み重ねられていくことで効果が  
でることだと思いますので、これを大切にしていかななくてはいけないと思うんですけど。さっきも言われていた年代  
的に見て10代後半であったり20代、30代、40代の方が少ないという事で、ネットの話もあつたんですけども、  
私個人はこの本の匂いとか感触とかペラペラってめくるあの音とかが好きなんですけど、今は携帯とかで見る人も  
多いので、その電子図書に関してはどんな風に考えてはるのかってお聞かせていただけますかね？

<事務局>

ないですね。今すいません。色々メディアで、うちで CD とかああいうのも今のところそこには全然予算が当たってない感じになってるので、それは財政等そういうのもやはり視覚の部分の資料っていうのも揃えていってきたいないう事でまた働きかけて。電子図書に関しては今のところすいません、何も考えてないというところでございます。

<委員>

いいのか悪いのかは別にして、今まで 1 回も図書館に足を踏み入れてない人もちょっと行ってみようかなとか、長い事足遠ざかっていた人が本当に行ってみたいなと思うようなやっぱし努力を今後も考えていかないといけないっていうのは共通のあれだと思うので。

<事務局>

一応学習室には結構夏休みのシーズンとか学生さんとか来ていただくんですけども、なかなか中に入ってもらえない。そういう方々に、以前中高生とか対象にしましたヤングおすすめ本を事業いう事で、携帯文庫とかそういうマンガから小説になったようなちょっと若い方が読まれるような本を読んでいただいて、感想を書いていただいて、それを冊子にしてるんですよ。それを本を選んでいただく参考にヤングコーナーのところにヤングおすすめ本の読まれた方の感想を置いておまして、そういうできればヤング、アダルト層の方が 1 人でも足運んでいただけるような事を検討して、また知恵あったら貸していただけたらまたぜひやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いしたいと思っております。

<委員>

後は予算ですね。これからもずっと議会にも言い続けてるところで、やっとなんかの少し上げていただきましたけども、引き続き私ここにかかってくるのかなっていう。何をやるにもお金がないと進んでいきませんし、後は人のマンパワーだと思っております。

<事務局>

後、電子図書はしていませんが、昨年 10 月からですが、国立のデジタル化サービスを柏原図書館だけですが閲覧できるようにしています。また電子図書とはまた違いますが、調べものとかされるのに、あまり利用がすごい多いわけではありませんが、やはりそういう国立の方のデジタル化サービスを利用される方が少し出てきています。図書館システム更新後 10 月から新たにサービスを始めました。

<委員>

今言われた国立の図書館の閲覧をパソコンでするんですか？

<事務局>

パソコンですね。柏原図書館に設置しているパソコンからです。一般公開されてる分は、家庭のパソコンからでも利用できますが、図書館でしか公開されていないような資料もあるので、そういう資料を見る場合は柏原図書館に来館してもらい見ることができます。

<委員>

私もこの資料読んで、国立の調べものができるんだっていうのを初めて知ったのですが。だから知らない方もい

らっしゃるので、またそういうのができますというのをわかるように広めてくださったらいいと思います。

<会長>

他、何かございますでしょうか？

<委員>

1 つ意見をちょっと述べさせていただきます。前回のこの協議会においても図書購入費についてはなんとか予算要求していただきたいなって。議会では新屋さんを先頭に図書購入費、図書司書の配置だったり学校との連携とか、そういう予算に関する要求は議会でも取り上げております。ただ権限の範疇で我々は決定権しかなくて、予算の提案権は担当の部長が一生懸命予算要求していただいているので、やっぱり財政当局という、組長の方針で大きく変わるんですね。我々も図書館の先進都市には何回も図書の視察研修には行ってまして、例えば九州伊万里市なんかは町あげて家で読むという家読という事をやっておられまして、テレビを消してその日は家族みんなで本を読むというキャンペーンを張ったところそれがものすごく浸透して、もう親子三代でテレビ消して本を読むすごくいい時間を市民全体でやっているという、そういう機運を上げていくよに我々も働きかけていかないといけないのかなという風に思うんですね。

また 30 ページの地域ボランティアの共同事業、これ本当にありがたい話で、紙芝居、読み聞かせといったら子供が 1 番最初に本にアプローチできる大きなチャンスなんですね。これだけやっていただいて非常にありがたい。ものすごくありがたいです。こういうところへ来られるお子さんっていうのは必ず保護者と一緒に来られます。保護者のお母さんが一緒に見るか、他の本を探しているか、ちょっと時間を使うというよりも時間を潰すというかたちで来られてると思うのですが、そういった方に子供に、対する本の教育についてアプローチをかけていく必要があるのかなという風には思います。子供が本を読む家庭は、親が本を読んでいるんです。僕も小学校 2 年生の子供おるんですけど、「本読め」言ったところで親が読んでなかったら全然読まないんですね。新幹線でも移動中でも親がスマホ触ったら子供もスマホ触るんです。親が本読んだら、新幹線の移動中でも子供は本を読む。そういう風に、せっかくここにお母さん、保護者が来るんでしたら、そういう風なアプローチをちょっと工夫をかけて、せっかく紙芝居、読み聞かせに来てる子供達に、文部科学省も読書は非常に教育的な観点が効果があるという事で、お母さんも一緒に本を読んで一緒に家族で読んでいこうという機運を高めて、予算措置を町全体で機運を高めていただくよう我々も取り組んでいきたいなと思いますので、担当事務局、そして担当部長の方もまたよろしくお力添えいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

<委員>

すいません。そういう意味でもブックスタート、私達ちょっとさせていただいてるんですけども、4 ヶ月の赤ちゃんにお母さんと一緒に読むんですけども、やっぱりその 4 ヶ月検診で行ってても、その子やっぱしっかり本を見るんですよ。それを見てたらこちらもやっぱ癒されますし。ですけども、その時にうちらも今までの会でも言ったと思うんですけども、図書カードを赤ちゃんのブックスタートの時に図書カードを作って。そしたらもう否が応でも図書館に対してちょっとやっぱり足を運ぶっていう感じになるんじゃないかなって。もうその時に本をいただいて帰って、それで「あっ図書の本、こんなんあるわ」っていうだけで終わるんじゃないかって、やっぱカードをそこで申請されたら、「あっせっかくカードあるんやから行こうか」っていう感じにお母さん自身がなってくれるんじゃないかなと思ったりもするんですけども、今のとこただ本をあげるだけですので、ちょっと一歩進めるんじゃないかなと

思ったりもするんですね。説明していただいた時に 4 ヶ月の赤ちゃんのお話し会なんかがある事をやっぱ言っていたくんです、図書館の方からね。説明していただいて、その話し会の時にそれこそポツンと 1 人だけっていう時もあったんですけど、「今日のこのお話し会どこで知られたんですか？」っていう風な感じで聞いたら、「いや、この間の検診の時に行って、ブックスタートの事からここで話し会があるっていうのを聞いたから来たんです」ってお母さん言われたんです。だからやっぱり投げかけていくっていうのを、やっぱ一言こういう話し会があるんですっていう事言っていたからお母さんが来てくれたから、やっぱり言っていけないいやなど思ったのが、すごく新鮮なお母さんの気持ちが伝わってきたんですね。またお父さんも最近よく 4 ヶ月検診でもお父さんがついて来てくれてますし、お話し会でもお父さんが子供さんを連れて来てくれたり、なんか今までとはだいぶお父さんの出席っていうか子供に関する関わり方っていうのが広がってきているような感じがここ最近見受けられます。

<会長>

ありがとうございます。他に何かございますでしょうか？特にないようでしたら、次第を先へ進めまして、最後ですけど、全般にわたって図書館に対してご意見とかご提案とかご質問とかございましたら出していただければと思います。何かございますでしょうか？

<委員>

ちょっとだいぶおぼろげになってしまって申し訳ないんですが

、山角館長の時に伊藤忠財団の DAISY 図書というのをちょっとお知らせして、無料でいただけるんですね。その発達障害があつて字が読むのが苦手な子供さんとかに向けて、タブレットにソフトを入れて読むという図書があるんですけども、紙芝居とかお話とか色々たくさんあつて、それを寄付してくださるそうなんです、無料で。それを取り入れる何か勉強して下さったと思うんですけど、その後どうなってるのかな？引継ぎとかはされてないんですか？たしかソフトを入れるのをまたお金かかるからなんとかとか、障害のあるお子さん向けだからどうとかがつていう、そんな事があつたような気がするんですけども。

<事務局>

ソフトをインストールするのに何か費用が発生する？それはすいません、帰ったらすぐ山角の方に確認して、もし費用伴うのであればまた予算申請の方していきたい。ちょっと通るかどうかわれなんですけど。

<委員>

せっかく無料でいただけるのでたくさん。

<事務局>

わかりました。

<会長>

山角館長の時に DAISY 図書について寄付を申請をしたという事ですか？

<事務局>

いえ。そういうお知らせをしたんです。てんとう虫の会で伊藤忠財団から補助を受けたので、その時にお知らせと  
うか教えていただいたんですね。こんなのがあ、図書館とか小学校とかそういうところで利用されませんか  
いう事でお知らせをしたんですけども、ちょっとなんか難しいみたいな事でそのままになっているんですけども。資  
料持ってくればよかったですけど。私の頭の中にちょっとあんまり残ってなくて申し訳ないんですが、そんな事  
もありましたって。

<事務局>

すいません、DAISY の分ですよ？

<委員>

はい。

<事務局>

それは確認してもらって、久保さんにフィードバックさせていただきます。

<委員>

よろしくお願ひします。後、なんていう幼稚園だったかな？絵本の広場をされてると思うんです。ご存知ですよ  
ね？府立図書館で。そこは把握されて？

<事務局>

はい。そういった本を貸していただいて、園庭内とかで例えばそういうショッピングセンターの広場とか場所を借り  
て展示したりとかサービスがあるというのはありますね。

<委員>

先程言っらしたのは図書館の外で何かをするっていうのにとっても向いているのではないかなと思っ、そうい  
う事も利用していただけたらなと思ひます。その時にはご協力させていただきますので、よろしくお願ひします。

<会長>

ありがとうございます。他、何かございますでしょうか？大丈夫でしょうか？特にないようでしたら、では以上をもち  
まして本日の会議に付されました案件の全てが終了いたしましたので、これをもちまして令和元年度の柏原市図  
書館協議会を終了いたします。委員各位におかれましては公私何かとご多忙にも関わらず出席賜り厚く御礼  
申し上げます。進行を事務局に返したいと思ひます。よろしくお願ひします。

<事務局>

高鉦会長におかれましては、長時間にわたり議事進行いただきましてありがとうございました。また各委員におか  
れましては貴重なご意見をいただきありがとうございます。今後とも職員一同市民が利用しやすい図書館を構築  
して所存でありますので、引き続きご指導、ご鞭撻の程お願ひ申し上げます。なお、最後になりましたが、本日

の会議録につきましては後日各委員に持ち回りさせていただいた上で図書館のホームページに掲載させていただきます事をご了承賜りますようお願い申し上げます。これをもちまして閉会させていただきます。本日はありがとうございました。